



謹賀新年

本年も昨年同様、職員一同宜しく申し上げます。
みなさまのご多幸をお祈り申し上げます。



友人からの便り

特定医療法人 耕和会 理事長 迫田 耕一郎
社会福祉法人 耕和会 理事長



鹿児島で医療に取り組んでいる長年の友人から届いた便りをご紹介します。私どもの法人の記念行事等にも参加頂き、毎回良い教訓を頂いています。

迫田 様

拝啓 深秋の候、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

今年は、安保法案改正、マイナンバー制導入、TPP受諾、原発再稼働等々、後になってから振り返ると、日本の歴史の大きな変革の始まりの年であったと記憶される年になるような気がいたします。

私自身も大きな変化の年となりました。1996年から日本で初めての有床診療所でのホスピス医療を始めました。この20年間で2000人近くの患者さんを看取りました。

1991年から在宅ホスピスを始めておりましたので、この25年間息を抜く時間も無く頑張っておりました。スタッフと皆様のおかげで理想を実現できました。

最近10年間はほとんどを一人で看取ってきましたので、さすがに肉体の衰えとともに体力の限界を感じるようになりました。

理想のホスピス医療をする体力がなくなったら、その時には入院や在宅のホスピスケアを辞める時だと考えておりました。

そこで9月末に決断をして、今年いっぱい入院も辞めることにいたしました。私としてはやり尽くした気持ちが強く、悔いの無い時間でした。

今後は外来での癌治療・緩和医療と、亡くなられた患者さんから学んだことを活かし、精神的孤独や社会的孤立から発症する病気に罹った人々のサポートをする「人生科・相談外来(笑)」を目指していく所存です。

これまでの御厚情に心より感謝いたしますとともに、これから何とぞ御指導、御鞭撻のほどよろしく願いいたします。

これまでの集大成として書きました論文と実績を同封いたしました。少しでも皆様のお役に立てれば、幸いです。

やり終えました。

敬具

平成 27 年 1 1 月

若き医療者たちへのメッセージ
— あなたのの中の最良のものを —

患者さんは、不都合なことや困難な目にあうと、混乱し理性を失い、わがままになるものです。あなたが良いことをしてあげても、役にたたなかったと言われるものです。でも優しさを失うことなく、患者さんに役立つはずの良いことをしてあげましょう。その良いことで、良い結果になっても、明日には忘れ去られるものです。それでもめげずに優しさを持ち続けましょう。寛容・誠実・正直であることで、かえって傷つき燃え尽きることもありましょう。でも治す仕事に留まりましょう。一生懸命努めても、罵声をあびることだってあります。でも一生懸命であり続けましょう。患者さんも、ひたすら助けを求めているのです。なのに、手助けする人を責めたり、無視してしまうのです。だから手助けを続けましょう。あなたの中の最良のものを、患者さんに与え続けましょう。文句を言うのは、手助けを求めている姿です。そう理解して、最良のものを与え続けると少しの時間が過ぎた時にわかります。あなたが患者さんのために一生懸命をおこないが、あなたの魂を豊かに大きく育ててくれていることを。それは天からのご褒美です。

堂園 晴彦



迫田病院の各医師から皆さんへの新年のご挨拶です。

佐々木 誠一 (専門：糖尿病・甲状腺・内分泌・生活習慣病・一般内科)

新年、明けましておめでとうございます。

当院の内科は、外来では糖尿病、高血圧症、慢性腎臓病をはじめとする生活習慣病や甲状腺疾患を中心に、また入院では加齢に伴って起こりやすい肺炎や尿路感染症といった感染症の治療から心不全や脳梗塞後のリハビリテーションまで、幅広い年代・疾患の患者様の診療をさせていただいております。

地域の医療機関、施設と連携しながら、目の前の患者様を一生懸命に診療することが皆様の健康、ひいては地域医療の充実に繋がると信じ、スタッフ一同今年も頑張っております。よろしくお願い致します。

迫田 哲平 (専門：大腸肛門・一般消化器外科)

昨年大阪内視鏡外科学会で当時国内最先端の「適塾」を訪ねました。江戸時代末期、鎖国状態で西洋学術を学ぶ唯一の情報源が蘭書でした。司馬遼太郎著「花神」で当時の様子を知ることができます。村田蔵六(大村益次郎)は後日、蕃書調所(江戸幕府直轄の洋楽研究教育機関で東京大学の源流)で教授を任じられますが、敵対する地元長州から倒幕・維新を仕上げます。福沢諭吉は慶應義塾を創設しました。

世の中が動くきっかけは、人の高い志・知・技術であり、量でなく質であるのかもしれない。社会の役に立つ質の向上を求めて行きたいものです。

佐々木(迫田) 万里代 (専門：腎臓・高血圧・内科領域一般)

新年明けましておめでとうございます。

早いもので宮崎に戻り今年で5年目を迎えます。

医療界も人生も山あり谷ありますが、心の笑顔を絶やさず、目の前にあることに誠実に向き合い、神様から与えられた一日一日の時間を大切に思えるような自分でありたいと思います。

日常の診療を通じて、皆様の心と体の健康維持のお役に立てるよう、微力ではございますが精進して参ります。

本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

土居 芳枝 (専門：一般内科・糖尿病)

あけましておめでとうございます。平成28年は申年(さるどし)です。申という字を漢和辞典で調べてみますと、のべる(はっきりと示す、詳しく説明する)はっきりしたさま、明らかなどという形容の意味、繰り返し、などの意味があるようです。

日々の診療において、患者さんにはっきりと根拠を示し、詳しく説明することを心がけ、それを実現するために繰り返し学習していくように努めていきたいと思っています。本年もよろしくお願い致します。

香月 博 (専門：麻酔科)

新年おめでとうございます。耕和会に入職してもうすぐ1年です。毎年500件を超えていた麻酔件数が今年度は半分以下のペースですが、還暦を控え年齢相応の業務量と考えています。おかげで3年ほど患った五十肩と頸部痛がこの半年でほぼ自然治癒しました。

少子高齢化が深刻な現在、健康体を維持して若い世代のお荷物にならないように頑張りたいと思っています。また、少子高齢化による若い世代への需要増加が、日本再生を後押しするような輝かしい年になることを祈っています。今年もよろしくお願い致します。

吉田 悦男 (専門：一般外科)

盆から年末までの体感スピードが恐ろしく速くなってきています。1か月毎に薬を取りに来られる患者さんを見て、毎週来られているような気がします。ゴルフの飛距離減少速度も加速しています。

何にしても早いのは良いこと、目出度いこと。本年もよろしくお願い致します。



お知らせ

第 23 回 耕和会合同研究発表会のご案内

開催予定：28年2月27日(土)14:00~ 宮崎市民文化ホール

診療

受付時間：月～金 08:30～17:00 土 08:30～12:00

診療時間：午前 09:00～12:30 午後 13:30～17:30

診療科

- 外科 ●大腸・肛門外科 ●消化器外科 ●内視鏡外科
- 胃腸外科 ●血管外科 ●内科(糖尿病・腎臓)
- 内分泌・代謝内科 ●消化器内科 ●血液内科
- 神経内科 ●リハビリテーション科 ●放射線科

主な診療内容

- 糖尿病 ●高血圧 ●甲状腺 ●生活習慣病
- 痔の日帰り手術 ●静脈瘤 ●ヘルニアの短期滞在手術
- 内視鏡治療・腹腔鏡 (各種がん検診・精密検査・先端治療に対応しています。)

『糖尿病について』

～ 第 12 回 フットケアが大切 ～

宮崎県地域糖尿病療養指導士 (LCDE)
看護師長 山添 みどり

糖尿病の合併症として、網膜症、腎障害、神経障害などがありますが、合併症として「足病変」を思い浮かべる患者さんは少ないと思います。足は末端にあるからこそ、体の異変を比較的早く知ることができる大切な場所です。足は「第二の心臓」と言われています。糖尿病による足切断は、体の血液循環に影響を及ぼします。また、足は移動する際の要であり移動が思うようにいかなくなると日常生活に支障をきたしてしまいます。そうならない為に日頃より足のケア（フットケア）についても関心をよせて大切にケアしてもらうきっかけ作りになればよいかと思えます。

1) 糖尿病による足病変のセルフケアについて、主な注意点を紹介します。

糖尿病の進行による変化をチェック

- ①末梢神経の働きが低下する
 - しびれや痛みがあったり、感覚が鈍くなっていませんか？
 - 足がいつもほてっていたり、つりやすかったりしませんか？
- ②動脈硬化が進行して、血流が低下する
 - 足が冷たくありませんか？
 - 足の色が悪くなっていますか？
- ③皮膚の抵抗力が低下する
 - 傷が治りにくくなっていますか？
 - ちょっとしたことでも化膿しやすくなりませんか？

潰瘍などに進展する病変をチェック

・以下のものがないか、こまめにチェックしましょう。
・ある場合は悪化させないように、治療が必要です。

- | | | | |
|-------------------------------------|---|----------------------------------|---|
| <input type="checkbox"/> うおのめ、胼胝 |  | <input type="checkbox"/> 水ぶくれ |  |
| <input type="checkbox"/> 皮膚の乾燥、ひび割れ |  | <input type="checkbox"/> 腫れ |  |
| <input type="checkbox"/> 切り傷、ひっかき傷 |  | <input type="checkbox"/> 皮膚の色の変化 |  |
| <input type="checkbox"/> 靴ずれ |  | <input type="checkbox"/> 化膿・悪臭 |  |

2) 次に毎日のケア方法や注意点についてご紹介します。

- ①毎日、足を洗い、清潔にしましょう。
洗うときのお湯の温度は熱くしないように気をつけ、37～39℃程度にしましょう。
- ②足の変化を毎日、観察しましょう。
表面だけでなく、指の間や足の裏側も、目で見、触って確認しましょう。
- ③はだして歩かず、靴下を履きましょう。
靴下は常に洗った清潔なものを身につけましょう。靴下は継ぎ目や縫い目がないものがよいでしょう。はだしのまま、靴を履かないように気をつけましょう。
- ④靴は自分の足に合ったものを履きましょう。
履いて痛みのないもの・足の指が当たらないもの・かかとが高くないもの靴ひもやマジックテープで固定するもの・足の甲が当たらないもの
- ⑤靴を履くときは、中に小石などの異物が入っていないか確認しましょう。
靴を履くときは、靴ひもを毎回結び直しましょう。
靴ひもは、かかとを着いてつま先を上げた状態でゆるみなく結びます。
- ⑥やけどしないように、こたつやあひらなど直接皮膚に近づけないように、常に気をつけましょう。
- ⑦皮膚が乾燥していたら、保湿クリームなどを使用して、ひび割れなどがないように予防しましょう。
- ⑧胼胝(たこ)やうおのめを自分で削ったり、自己流で治療したりしないようにしましょう。
- ⑨爪はまっすぐに切り、角を深く切り込み過ぎたり、深爪したりしないようにしましょう。
- ⑩厚くて切りにくい爪は無理をせずに、ご家族や看護師に削ったり、切ったりしてもらいましょう。
- ⑪神経障害や視力障害のある方は、爪切りや足の観察は、ご家族など他の方に協力してもらいましょう。
- ⑫足に異変が出たら、放置せずに、すぐに受診しましょう。



これから冬場になりますます皮膚の乾燥が気になる時期となりました。足にも関心を寄せ大切に保護して上あげてくださいね！